

土木学会四国支部「土木紀行」No. 3 (香川県)

北浜アリー地区、「旧」と「新」が融合した場所

現在、都市間競争が熾烈化する中、全国の各都市が各地のNo.1をアピールし、存在感を示すことに躍起になっている。高松が比較的優位を誇れる素材は多々あるが、瀬戸内風景とそこに育まれた歴史・文化に勝るものはない。「原風景を失わない」・「活かす」そうした志が地域の魅力につながると考えられている。

海に面した高松ウォーターフロントは、瀬戸内の眺望、ターミナル文化、人の情緒、場所の情緒が存在するエリアである。ここには、機能を失ったストックが時代に合わせ進化を遂げた場所、「北浜アリー」がある。ここではその魅力について紹介する。



図-1 北浜アリー地区周辺

JR高松駅より海沿いを東に向かうこと約10分、錆び付いた倉庫群が立ち並ぶエリア、北浜アリー地区が見えてくる。かつて、この地区は海運船荷の集積倉庫街として賑わいをみせていた。しかし、瀬戸大橋の開通や90年代に行われた倉庫移転の影響を受けて衰退した結果、ゴーストタウンとしてのイメージが定着し、老朽化が進んだ倉庫は取り壊されていく一方だった。そこで、地区の原風景を残そうと、地元の建築家によってJA香川が所有する倉庫を商業施設として転用するプランが提案された。「旧」と



図-2 北浜アリー地区

「新」とが融合した北浜アリー地区は、かつての面影を残しつつ、2001年新たな出発を迎えることができた¹⁾。



図-3 北浜アリー内の中庭 (パティオ)

・図-3にある石畳は中国の「万里の長城」から持ってきた石から作られている。

古い倉庫の屋根や外壁を補修し内部を改装して、カフェ、雑貨屋、飲食店、美容室等がある。現在では観光客も多く立ち寄る場所なり、地元の幅広い世代の方々にも愛される場所となっている。

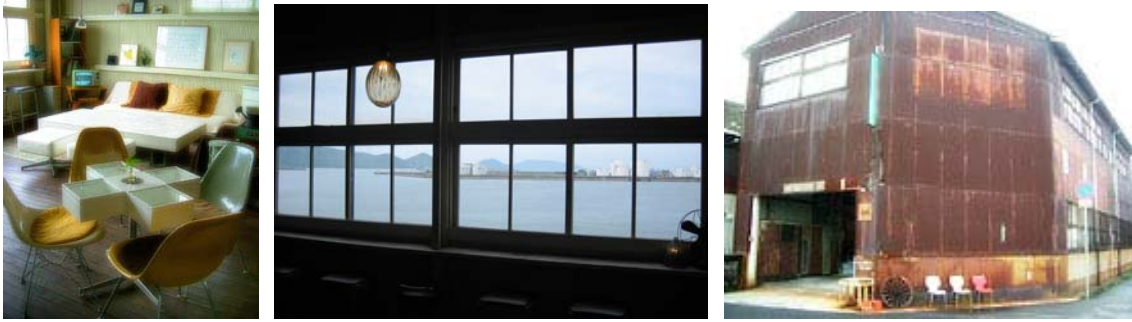


図-4 北浜アリー内のカフェ

・北浜アリー内にあるカフェからは瀬戸内の原風景が広がり、多くの人達の癒しの空間となっている。

高松ウォーターフロントには北浜アリー地区のような賑わい施設だけでなく、旧・新の多くのストックが散在している。それらを個別の資源にとどめるのではなく、一体的な資産へと結実させることが、今後の更なる発展につながると考えられる。

現在、北浜エリアのほかに大的場エリア、サンポートエリア、玉藻エリアが存在し、ウォーターフロントをめぐる様々な検討がなされている。それぞれのエリアの特徴を活かすための施策が提案されているが、それはあくまでも図-5 のようなエリアを区分した上での議論である。

こうしたエリア別の検討には、自ずと限界が生じてくる。したがって、今日求められるものは、エリアに誇る「共同創造性」の発揮という発想なのではないだろうか。

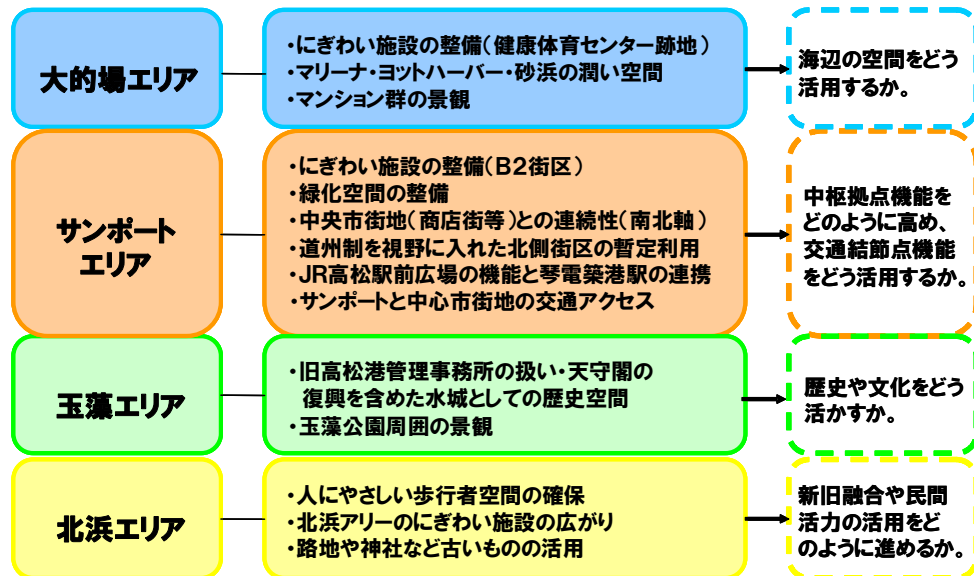


図-5 高松ウォーターフロントにおけるエリア別の課題

参考資料

1) 文化複合商業施設〔倉庫〕井上商環境設計《北浜 alley》《NY ギャラリー》
<http://foru.minax.co.jp/renovation/archives/093alley/>